

一般社団法人 日本生態学会
平成26年度第3回通常理事会議事録

1. 開催日時：平成26年6月22日 午後12時～午後4時半
2. 開催場所：東京国際フォーラム 会議室G507
3. 出席者：
 - ・理事会構成員（20名・定足数10名以上）
（理事）齊藤隆、可知直毅、陶山佳久、石田清、牧野能士、古賀庸憲、半場祐子、吉田丈人、辻和希、竹中明夫、大手信人、浅見崇比呂、黒川紘子、宮下直、西廣淳、
（全理事20名中、15名参加）
 - （欠席理事）久米篤、角野康郎、中野伸一、矢原徹一、巖佐庸
 - ・監事：石田厚
 - ・オブザーバー：岡部貴美子、石井励一郎、池田浩明
 - ・事務局：鈴木晶子、橋口陽子
4. 議事概要：

定足数10名を超える15名の理事の出席を得て理事会が成立したことを確認した後、定款第42条に従い齊藤隆会長を議長として議事を進行した。議事録署名者は、定款第46条に則り、齊藤隆会長、石田厚監事とし、議事録作成者は陶山佳久理事が担当する。

【報告事項】

- (1) 事務局報告（庶務・会計）
 - ・資料1に基づいて陶山専務理事より報告があった。
- (2) Ecological Research 編集委員会報告
 - ・資料2に基づいて可知次期会長より報告があった。
 - ・Ecological Research のセルフアーカイブについては、文言を ER 編集委員会で検討、提案することになった。
 - ・Ecological Research 超過ページ代（現在1頁18,000円）の徴収を行わないことが提案された。次期理事会で引き続き検討することになった。
 - ・超過ページ請求は proof にならないと分からない点や、海外から超過ページ代を取りはぐれている問題が指摘された。
- (3) 日本生態学会誌編集委員会報告
 - ・資料3に基づいて古賀編集長より報告があった。今後、新しい連載を検討していくとの報告があった。
- (4) 保全生態学研究編集委員会報告
 - ・資料4に基づいて陶山専務理事より報告があった
 - ・生態誌・保全誌の PDF を掲載している CiNii が 2016 年 3 月終了。その後の電子版掲載について、J-stage を使用するか自前で行うか等について各編集委員会で今年 12 月までに検討し、来年 3 月の大会で学会の方針を決定するスケジュールで進めることになった。相談役として電子

情報委員会が協力する。

- ・ 和文誌電子投稿システムは稼働可能な状況。早めに運用開始するよう進める。

(5) 大会準備状況報告

- ・ 資料5に基づいて吉田理事より報告があった。
- ・ 公開講演会で応募の科研費が不採択。公開講演会費用を大会経費から支出することについて理事会にて承認された。
- ・ 学部学生の大会費免除について継続していくことが承認された。
- ・ 危機対応について→資料の申し合わせを基本に行っていくことが承認された。
- ・ 協賛金についてはこれまで通り実行員会で決めることが承認された。

(6) 各種委員会報告

<キャリア支援>

- ・ 半場理事より報告があった。女子中高生夏の学校は関東地区会で担当者を検討する。

<自然保護>

- ・ 資料6の要望書を提出する
- ・ 可知理事より辺野古が急を要する状態であり、学会では2013年に要望書を出しているが、自然史学会連合に提案し自然史学会連合からも要望書を出せないかと内々に相談があるとの報告があり、自然保護専門委員会から提案があれば理事会は承認することが決まった。

<生態系管理>

- ・ 西廣理事より報告があった。学会編集の出版物をウェブページで紹介できないかとの提案があり、事務局で対応することになった。
- ・ 緊急の要望書・声明について、パブコメを委員会の数名で出す場合も理事が内容を確認できるようにメールで情報を知らせることになった。

<電子情報管理>

- ・ 竹中理事より報告があった。
- ・ 理事会のMLを作成する。
- ・ タスクフォースからの報告については、今後理事会前に座長の陀安氏に報告事項があるかどうかを確認することになった。

(7) INTECOL Board Meeting 報告

- ・ 資料7のとおり
- ・ 現在INTECOLに生態学会から理事が出ていないため、2017年の北京大会から2~3回継続してINTECOLに参加できるような方を人選することが承認された。

(8) 男女共同参画学協会・自然史学会連合要望書への賛同

- ・ 資料8に基づいて齊藤会長より2件の要望書に賛同したと報告があった。

- ・ 要望書の賛同について、今後は該当委員会の判断後、執行部が確認し理事にも内容をメールにて伝えることになった。

(9) その他

＜自然史学会連合＞

- ・ 大手理事より子供のための出版物について生態学会員 5 名にライターが打診したとの報告があった。

【審議事項】

(1) 第1号議案 会則について

資料 9 の会則案が全会一致で承認された。

(2) 第2号議案 各種委員の選任について

資料 10 の新規委員・委員継続が全会一致で承認された。

(3) 第 3 号議案 生態学琵琶湖賞について

資料 11 の提案が全会一致で承認された。また、運営にかかわる資金を生態学会の一般会計から支出することが承認された。

(4) 第 4 号議案 ER 契約更新について

可知委員より Ecological Research の出版契約について、シュプリンガーから変更する場合は今年 12 月までに通知が必要、電子出版のみにすると現在より 300 万円程減額されると報告があった。また、契約については調達規定が必要。入札の金額等を検討の上規定案を作成し、12 月の理事会で審議することになった。

(5) 第 5 号議案 学会誌規定について

資料 12 の提案について全会一致で承認された

(6) 第 6 号議案 生態学会若手会員に対するキャリア支援活動に関する提案

資料 13 の提案について、東北大学「環境機関コンソーシアム」へキャリア支援委員会として加盟することが全会一致で承認された。

(7) 第 7 号議案 次期共同利用・共同拠点のあり方について

資料 14 の提案について審議された。生態学関連の共同利用・共同研究拠点到に挙手する機関があれば知らせてほしい。生態学会が調整機能を果たすかどうか 12 月にも検討することになった。

(8) 第 8 号議案 NHK アンケートについて

資料 15 の提案について、理事が内容を確認して判断することになった。(その後会長判断で会員への一斉送信はしないことになった)

(9) 第9号議案 倫理問題関係の組織・規定等の整備に関する検討

- ・ 資料16に基づいて齊藤会長より提案があった。
- ・ 2008年の倫理問題検討委員会答申では規則を制定することが提案されているが、規則は生態学会になじまないとの意見があり、規則ではなく心得として作成する方向で検討することになった。
- ・ 今後の検討について常設委員会は設置せず、齊藤会長と小泉監事で案まとめる。
- ・ 2重投稿等の疑い等問題を編集委員会で探知したら学会で共有。専務理事が窓口となり処遇については理事会で判断してはどうかとの意見があった。

(10) 第10号議案 仙台大会・総会（2016年）日程について

2016年3月20日～24日で開催することが全会一致で承認された。

(11) その他

1. 各賞受賞学会員の紹介について

- ・ 本人からの要望があった場合にHPに掲載することになった。生態学とかけ離れる内容については断ることもある。
- ・ 希望者は賞の名称、受賞者、所属、リンク先を学会事務局に知らせる。
- ・ 会長からのメッセージで周知する。

2. 生態系管理委員会への諮問

（大規模風力発電、太陽光発電所建設に関するガイドラインの策定について）

北海道の自然度の高い場所に風力発電・メガソーラー開発についてルールがないため、生態学会で規定策定やパネリストを出してほしいとの要望があった。生態系管理委員会、自然保護委員会で議論することになった。

3. アメリカ生態学会より99回大会招待状があり、陶山専務理事が参加予定。来年の100回大会は齊藤会長が参加する。

4. 任意団体の解散について

まだ法人への移行残務が有る。今後は12月の理事会で解散できるように移行手続きを進めていく。

閉会：以上の議事を終え、16時30分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、会長、監事がこれに記名押印する。

平成26年6月22日

会 長 : 齊 藤 隆 ⑩

監 事 : 石 田 厚 ⑩